

# 県技工士会懇談 若者の希望が持てる業界に

県保険医協会は、10 月 14 日に長野県技工士会との懇談を Web 形式で実施した。技工士会からは小田切康二会長、勝野則夫副会長が出席、協会からは宮沢裕夫会長を含む役員 3 名ならびに歯科部員 1 名、事務局が出席し、協会が 8 月末から実施した県内の歯科技工所を対象としたアンケート (4 面)、歯科技工士の養成・確保などについて意見交換を行った。

## 2024 年度歯科技工所アンケート

歯科技工所アンケートの中間集計結果で、労働時間については約 7 割の回答者が週 60 時間以上の労働に従事しており、また 4 分の 3 は休みの日が週 1 日以下と回答している。技工士会からは、「大規模ラボでは従業員は

週休二日で、時間外労働は減らすよう努力しているが、経営者や個人ラボでは休みもなく長時間労働にならざるをえず、労働条件は改善されていない」との実情が報告された。

また、保険技工物の納期の延長の有無を尋ねた設問で、「納期の延長を申請したことがない」との回答は約 8 割、「ある」が約 2 割となった点について、小田切会長は「患者さんの都合もあるので納期を延ばすという考えが無かった」とし、勝野副会長は「納期に合わせる努力はもちろんするが、可能な納期よりも短く設定されてどうしても厳しい時は先生と交渉することがある。業界として納期を延ばす傾向になっているという実感はある」との見方を示



Zoom で技工士会と懇談

した。

2024 年度診療報酬改定で新設された「歯科技工士連携加算」の評価について、「加算そのものを知らない」とする回答が複数寄せられた。技工士会からは「組織率が低いため、新点数を知らない技工士も多いのではないか」との意見があり、技工士会未入会者への点数や制度の周知が課題として挙げられた。また、歯科医療機関に訪問して色調採得などを行う場合は往復の時間も含めて 1 時間以上かかり、その間、技工が止まってしまうため、歯科技工士連携加算の 50 点 (対面の場合) や 70 点 (ICT を用いた場合) では点数が低すぎてコストに見合わないとの評価があった。

診療報酬改定前後の技工料金について尋ねた設問では、技工料が歯冠修復・欠損補綴にかかる費用のうち 50 ～ 60 % 程度で、技工料の目安である 70 % に届いていない技工所が多いことがアンケート結果から分かり、技工士会からは「実態通りではないか」との感想が寄せられた。一方で義歯を中心に 70 % に合わせた値上げを行っている回答が見受けられ、技工士会は「歯冠修復・欠損補綴の費用のうち 70 % の点数を示した『製作技術点数』が歯科医師会から周知されたことで料金交渉がしやすくなったのではないか」との見解を示した。協会からは、「6.5:3.5 を 7:3 にしても歯科医療機関の経営には大きな影響はない。技工士不足に

危機感を持っている歯科医師は少ないので、若い人たちが技工士の仕事に魅力を感じてもらえるようにまず技工士から積極的に料金値上げの交渉をしてみしてほしい」と提案した。

## 技工士減少・歯科医師減少は業界として一体となった取り組みを

技工所アンケート結果では技工士の約 6 割が 60 代以上で、「後継者がいない」との回答が約 8 割となり、技工士確保が困難となっていることが鮮明になった。技工士会からは、技工士のなり手不足の現状に関し「新卒の技工士は激減しており、今年は県内に 6 名しかいない。高校の進路指導の先生も技工士は大変な仕事だからと勧めない。中学校や高校に職場体験をプレゼンしていきながら地元で技工士を増やしていく努力をしなければならない」と発言があり、宮沢会長からは「なり手の減少は技工士だけではなく歯科医師に起こっている問題でもあり、歯学部でも 5 年間連続して定員割れしている学校が私立歯科大のうち 3 分の 1 もある。10 年先に歯科医療が提供できるかどうかという瀬戸際だ。歯科医師・技工士不足は歯科界全体の問題として一緒に取り組んでほしい」と呼びかけた。小田切会長は「歯科医師、技工士、衛生士が魅力ある職種になれば子どもたちから選ばれない。歯科医療費の総枠拡大を訴え、より良い業界にしていくために一緒に考えていきたい」と発言、協会からも総枠拡大を掲げる「保険でより良い歯科医療を求める請願署名」への協力を求め、快諾された。最後に、「技工士がいなければ歯科医療はできない。若い人が希望を持てる業界にしていましよう」とあらためて訴え、今後も懇談を継続し技工問題に引き続き取り組んでいくことが確認された。

## 第 12 回 いい歯と健康 噛み応えある食事で口腔機能維持

12 月 1 日、県保険医協会が加入する「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会は、長野市生涯学習センターと Web で第 17 回総会を開催し、2023 年 11 月から 2024 年 10 月までの活動の振り返りと 2024 年 11 月からの活動方針について意見交換を行った。総会の中で、「保険でより良い歯科医療を求める請願署名」を長野連絡会として 1 万筆を目標に取り組むことを確認した。



講師の松尾浩一郎氏

同日に、第 12 回県民公開講座「いい歯と健康」を開催、東京科学大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野の松尾浩一郎教授を講師に「口の健康が健康長寿の源—あなたの口の健康力知っていますか?—」と題して記念講演を行い、Web 含め 57 名が参加した。

松尾教授は、健康寿命を延ばすためには感染対策としての口腔ケアとともに、咀嚼や嚥下などの口腔機能を維持することが重要であり、口の健康意識を高めることが全身のフレイル予防になると解説。噛む力が低下すると噛み応えのある肉や野菜を避けがちになり、高カロリー・低たんぱく・低ビタミンのカロリー過多で栄養不足の状態になり、要介護になりやすくなると説明したほか、義歯新製の際に栄養指導を行うとフルーツと野菜の摂取量が有意に

増加し栄養状態が改善するとした研究結果を紹介した。また、口腔機能はそれぞれの機能が互いに補い合い、衰えを自覚しにくいいため、口腔機能の低下はセルフチェックなども活用して日頃から注意してほしいと述べた。また、自治体などで取り組まれている「カムカム健康プログラム」の口腔・栄養・運動の一体的取り組みを紹介し、栄養改善や運動だけでなく社会参加をすることでフレイルリスクが低減すると解説した。さらに、軟らかい食事で噛む回数が減ると口の機能も低下してしまうが、噛み応えのある食事は自然と咀嚼回数が増えるため、食材を大きく切ったり加熱時間を短くするなど工夫してみしてほしいと呼びかけた。

第二部では歯科医師によるお口の相談コーナーと歯科衛生士によるブラッシング指導を実施し、お口の相談コーナーに 16 名、ブラッシング指導に 15 名が参加した。それぞれ 20 代から 80 代までの幅広い年齢層の参加があり、県保険医協会の役員の歯科医師 3 名と県歯科衛生士会から派遣された衛生士 6 名が歯や口の相談に対応した。



歯科衛生士によるブラッシング指導

## 医科『在宅医療点数の手引』説明会

### 在宅医療の請求方法を解説

県保険医協会は 12 月 11 日～ 19 日にかけて上田、飯田、松本、長野に会場を設け、『在宅医療点数の手引 2024 年度版』をテキストとした医科会員医療機関対象の説明会を実施し、医療機関スタッフ等 35 名が参加した。

講師は協会事務局が務め、『在宅医療点数の手引』独自の図表や Q & A、請求事例などを紹介しながら、訪問診療時の同一建物居住者の考え方といった在宅医療の基礎的な部分から解説を行った。

参加者からは、施設入所者への診療などこれまで曖昧に請求していた部分の理解が深まったとの声もあり、説明



長野会場の様子

会終了後に個別に事務局へ質問をする参加者もいた。

なお、会場参加が叶わなかった医科会員に向けて、開催録画を協会ホームページに掲載した。医科会員には視聴方法の案内文書を本紙に同封している。